

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	クジラくらぶ			公表日 令和 8年 2月 24日			
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	3		奥の居室を使用したり、中庭に出て活動したりしている。	・定員に問題はないが、フロアで過ごす利用者さんも多く、密集していることも多い。 ・聴覚過敏の利用者が増えているのでもう一部屋あればいいと思う
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		1	こどもの状態も変化するため、日々、職員配置を考えている。	送迎などで支援者が出る個別対応の体制ができず、目が届きにくくなる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	2		施設内は概ねバリアフリーになっており、発達支援室内は視覚で確認できるよう、写真やカードで絵表示をしている。	身体に合ったテーブルや椅子が少ないように思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		1	取りこぼしが無いよう、掃除チェックリストを作成し、毎日清掃・消毒している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10			本人の意思でいつでも使用できるように開けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	5		一部職員に留まってしまっているので職員同士で声をかけあう。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			普段からスタッフ同士のコミュニケーションが取れており、お互いに意見が言える雰囲気ができている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10			年3回は外部講師を招いて全体研修を行っている。その他個人的に興味のある研修や県が主催する専門的な研修も自由に受講できる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		1	ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10			面談や連絡帳、日々の様子などからニーズをくみ取り個別支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10			主に担当している支援者の声を参考にし、協議しながら検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		1	計画作成後、箇条書きにした一覧表を職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	2		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		1	・年間の活動計画をもとに四季を感じられるプログラムを考えている。 ・個別評価をしっかりと理解しながら計画を立てている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	3		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	4	2	気になる時や問題があった時は話し合い、共有している。連絡ノートに記入する。	送迎でなかなか職員が揃わない。些細な事でも漏れなく共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		1		記録を取る時には意識しているが検証・改善につながらないこともあるので意識して努めたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	1			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1	1	当日の活動について、複数の提案をしたうえで本人に選んでもらうようにしている。	指示待ちにならないよう、声掛けをすることを心掛ける。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		1	一番関わりのある担当者と児発管が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	2		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			行事はホームページで確認し、不明な点は学校に問い合わせている。連絡調整も必要であれば学校と適宜行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	4	児童発達支援センターの公開療育に参加したり、気になることがあれば相談員を通じて情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		2	同一建物内の生活介護の事業所へ移行される場合に情報を提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	4	児童発達支援センター主催の研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	3	周南市地域自立支援協議会に法人として参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10			送迎時や連絡帳でお知らせし、気になることがあれば電話で情報共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	3		保護者の相談を受けたり、家での様子はどうか、家族支援等ができておらず、今後家族を含めた支援ができればよいと思う。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		2		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		1	送迎時や連絡帳、面談で随時こどもや保護者の意向を確認するようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		1	面談で保護者と意見が合わなければ支援内容を見直し、同意の上計画を作成している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		1	送迎時や電話で面談の依頼があれば適宜応じている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	4		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		1	ご意見箱を玄関に設置している。苦情があった場合は迅速かつ適切に対応し、職員間で共有し、再発防止に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10			会報誌「ボレボレ通信」で活動の様子や事業所からのお知らせを発信している。また、ホームページでも情報開示や予定表、ブログの更新をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			取り扱いには注意し、個人情報が記載された書類は鍵付きの書庫に保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		1	障害の特性等を把握、理解した上で関わるように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	1	万一の災害に備え、水や食料、簡易トイレやポータブル電源等準備して訓練している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		3	服薬がある場合は与薬依頼書を提出してもらっている。こどもの状況は契約時に登録票に記載してもらい、確認している。	内服薬の変更時等の連絡が不十分なことがある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	2	活動で調理など行う場合は都度保護者へ連絡し、許可を取るようになっている。	今のところ医師の指示書が必要な児童はいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1	2	訓練後は見直しを行い、次回に活かせるようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1	1	危険な事例が起こった際にはヒヤリハット報告書を作成し、再発防止の方策を検討している。	周知できていないこともあるので職員が共有するよう、徹底する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			内部研修を定期的実施している。交代で外部研修にも参加し、全職員への伝達研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10			他害や自傷、外出時の飛び出しなどが想定される児の保護者と面談し、同意書を交わしたうえで支援記録の体制を整えている。		